

ボランティア情報



～つながる、広がる、福祉教育～

福祉教育 わたしたちの実践

静岡県 島田市社会福祉協議会 地域つながり推進班 書記

すずき りく
鈴木 莉玖さん



【地域、先生、子どもたちとの距離を縮めた新しい福祉教育の試み】

島田市社会福祉協議会（以下、市社協）では、これまで行ってきた福祉教育の内容が画一的で、子どもたちの感想がありきたりになりがちである点に課題を感じていました。鈴木さんは「先生方が多忙なうえ、何をしたらよいかわからないのでは」と考え、まずは先生方と丁寧に情報共有をすることにしました。そのツールとして、地域の特性を活かして市社協ができることや、福祉教育の年間スケジュール例などを資料にまとめ、先生方に郵送しました。資料では、色使いを明るく、手書き風にするすることで、目にとまりやすく、親しみやすさを感じてもらえるようにしました。さらに、QRコードで手軽に申し込みができるようにしました。

その効果は大きく、先生方から個別

に連絡が入るようになりました。新たな試みゆえに手間が増える面もありますが、鈴木さんは「福祉教育の授業を子どもたちの未来につながる45分にしたかった。子どもたちが楽しく学ぶ様子を見たら、手間よりも楽しさのほうが勝ります」と語ります。

先生方からは「以前の福祉教育とは変わってきた」との感想が聞かれるようになり、子どもたちからは「地域みんなが笑顔になる催しをしたい」との声があがるなど、さまざまな変化が現れました。実際、子どもたちが主体となり、漫才を披露したりカフェを開いたりする地域のイベントが企画されています。鈴木さんはこの点について次のように語ります。「地域の催しは子どもたちが参加者という立場で関わることが多いですが、今回の企画

では子どもたちの主体的な行動が形になるようとしています。福祉教育での気づきが、子どもたちの考え方や行動の変化、自信につながるなど、多くの学びの実体験になっていると思います。

また、先生方から「子どもたちに市社協のことを教えてほしい」との要望も寄せられたことから、市社協の仕事の紹介を通して、福祉を学ぶ講座も実施しました。すると、子どもたちが市社協を訪れ、ボランティア活動などをサポートしてくれるようになったそうです。

鈴木さんは、今後も先生方と丹念に協同することで、子どもたちが「気づいたら福祉を学んでいた」と感じられるような、市社協だからこそできる福祉教育の実践を目標にしています。

Contents

- P.2▶ **特集** 地域住民が地域生活課題を発見し、解決につなげる仕組みづくり～社協が住民の“声”を大切にすることで生まれる住民参加の輪～
- P.6▶ わたしにとってのボランティア
- P.7▶ キーパーソンから学ぼう！
- P.8▶ 災害ソ・ノ・ト・キ！ | インフォメーション

地域住民が地域生活課題を発見し、 解決につなげる仕組みづくり ～社協が住民の“声”を大切にすることで生まれる 住民参加の輪～

社協には住民の相談やニーズが集まりやすいため、住民の「声」を起点に、住民主体の活動を応援することができます。具体的には、小地域での「いきいき・サロン活動」の展開など、これまで社協は住民主体の地域福祉活動に伴走してきました。

今回の特集では、住民自らが地域生活課題に向き合い、解決に取り組む事例を通じて、社協が住民の“声”を大切にする意義や、住民参加を促進する具体的方法等を学びます。

事例 1

▶ 住民主体でさまざまな地域福祉活動を推進する学区社協。住民の何気ない言葉や様子を見逃さず、活動に活かす学区社協と、それをバックアップする区社協の取り組み

京都府・京都市中京区社会福祉協議会



左から
藪田さん、植野さん、
大西さん、横井さん

なかぎょうく
中京区は、京都市のほぼ中央に位置し、官公庁や政治・経済団体、商店に加え、二条城や社寺などの歴史的な建造物も多数所在しており、市内で3番めに小さい区(面積 7.41km²)ながら、市の産業・経済活動の中心ともいえる地域となっています。人口は近年、若い世帯の流入により増加傾向で、今年10月時点で約11万人、高齢化率は24.6%です。

この中京区で、住民主体のさまざまな地域福祉活動を推進している「学区社協」の活動についてご紹介します。

京都市中京区社会福祉協議会

事務局長 やぶた こうじ 藪田 浩司さん / 事務局次長 おおにし かずお 大西 一雄さん
地域福祉コーディネーター うみの はるな 植野 春菜さん

京都市社会福祉協議会

地域福祉推進室 地域支援部 部長 よこい まこと 横井 真さん

京都市の伝統的な地域性と、 住民に愛される学区の歴史

京都市は、住民による地域福祉活動の歴史が長い地域です。1869年に京都市(当時の京都府)で日本初の小学校の開校式が行われたのを皮切りに、市内で小学校は「番組」という行政区画ごとに建設されていきました。小学校は町組会所や保健所、防災や防犯などの機能を果たす自治活動の拠点となり、1892年に「番組」から「学区」へと改称されました。戦後には小学校の通学区と重ならない地域も出ましたが、学区

に対する住民の愛着は強く、現在まで自治活動の単位として受け継がれています。

現在、京都市には219の学区社会福祉協議会(以下、学区社協)が存在し、中京区では23の学区社協がそれぞれの地域性に合わせた地域福祉活動を推進しています。

中京区における 地域生活課題とは

学区社協は住民主体を原則としていることから、運営は各町内から選出さ

れた福祉委員、民生委員・児童委員、自治会、ボランティア団体、学校関係者、福祉施設、関係団体、企業など住民による自主的な活動をもとに行われています。藪田さんは近年、多くの学区に共通する課題として、マンション



介護予防の取組である「健康すこやか学級」は、学区毎のニーズに合わせ、多様な内容で実施されている

の居住者増加に伴う問題を挙げます。「最近では区内の約7割がマンションの居住者で、学区によっては9割を占めるところもあります。居住者は自治会に加入しないことが多いので地域とのつながりが希薄化しています。また、居住者の孤立により、孤独死や虐待などの問題も表面化しています」(藪田さん)。

「健康すこやか学級」のなかで 学区社協ごとに多様な取り組み

学区社協では、こうした課題の解決を念頭に各地域のニーズに合わせた重点目標を掲げ、見守りや居場所づくり、介護予防などの活動に取り組んでいます。このうち介護予防として実施されている「健康すこやか学級」は市の委託事業で、ほぼすべての学区社協が取り組んでいます。内容は体操や筋力、音楽や小物作り、茶話会など学区社協ごとに工夫され、開催頻度も月1回から週3回までさまざまです。

例えば、^{ほんのう}本能学区社協では、今年11月に「地域全体で男性による介護について理解を深める」ことを目的とした認知症と介護の勉強会を開催しました。これは、植野さんが本能学区社協のいどばだカフェで、運営に携わる担い手から「高齢者の男性が妻の介護をしている。何かしてあげたい」との声を聞いたことがきっかけです。「ちょうど、^{すさくだいはち}朱八(朱雀第八)学区社協さんで『いつもと違った認知症の勉強会をしたい』とのことで、認知症家族の会を招いていました。その会には男性介護者もいらっしゃるの、本能学区社協さんにご紹介しました」(植野さん)。

ほかにも学区社協では「マンションでは隣近所の関係性が希薄化しているので、居場所づくりができないか」「今ま

では違う体操をしたいが、何かよい案はないか」「災害に備えたモノづくりができないか」など、住民自身が能動的に発想し、実現に向けて情報収集や調整、運営を行うスタイルが定着しています。

見守りのツールとして 寝具クリーニングや誕生日に 花束を

学区社協では、見守りにおいても配食や訪問、寝具クリーニングなどさまざまな活動をしています。なかでも寝具クリーニングは、市内の他区の学区社協でも数多く取り組まれており、中京区では半数以上の学区社協が実施しています。これは、学区社協がクリーニング業者と提携し、年1~2回、ひとり暮らしの高齢者等を訪問して預かった布団を丸洗いして乾燥し、その日のうちに届ける活動です。住民に大変喜ばれている活動ですが、「学区社協にとっても見守りのよいツールになっている」と藪田さんは説明します。単に『お元気ですか?』と訪問するよりも、寝具クリーニングなら高齢者にとってメリットがあり、学区社協にとっても明確な理由をもって訪問することができます」(藪田さん)。

また、^{ちっかん}竹間学区社協では毎月第1金曜日に、誕生日を迎えた70歳以上の高齢者を訪問し、花束と手紙を渡す活動をしています。以前は誕生日とは関係なく、年1回ですべての高齢者を訪問していましたが、「もっと一人ひとりとゆっくり話をする時間をもちたい」という竹間学区社協の会長の思いから始まった取り組みです。

これも非常に好評で、高齢者のなかには花瓶をもって学区社協の担当者を出迎える方もいるとのこと。植野さんはその様子について次のように語

ります。「いくつになっても誕生日をお祝いされるのはうれしいことですから、本当に喜ばれています。その訪問のなかで、担当者から『最近どうですか?』といった話をしたり、サロンのチラシを渡して『待っていますよ』とお伝えされています。訪問活動として、とてもすてきな取り組みだと思います」。

区社協による学区社協への支援 -活動者の思いや声をさらに広げていくために-

植野さんは「ご主人を早く亡くされた女性が、『この活動があるからいきいきと暮らせる』と話してくださったり、高齢者が『この活動のおかげで元気でいられる。生きがいになっている』などと話してくださることがあります」と明かします。横井さんも「地域のために何かをしてあげるといふより、自分たちのためにも活動していて、みんなの居場所になっていると思われたい」と語ります。

区社協では、学区社協の活動をさらに活性化するため、情報交換の場として学区社協の会長会議を開催しているほか、今年度は健康すこやか学級の活動報告会を企画中です。

また、植野さんは各学区社協が毎月提出する健康すこやか学級の事業報告書に目を通し、「この活動はどうでしたか?」などと日頃から電話などで声がけをするとともに、新しい取り組みを行う際はできるだけ足を運ぶことを意識しています。「そうすることで、学区によって異なる地域性や高齢者の雰囲気に合わせて活動の提案や、ボランティアグループの紹介などができます」(植野さん)。さらに、地域の居場所活動にもできるだけ出向くことが大切です。この点について大西さんは「現場に足を運び丁寧に声を拾うことは、住民の皆さんから信頼される職員になるうえでとても大切です」と語ります。

区社協では、間もなく地域福祉活動計画第五次プランの策定が始まります。その計画作りにおいても、これまで通り学区社協をはじめとする地域住民の声を取り入れ、よりよい地域活動につなげていきたいと考えています。



布団を丸洗いの寝具クリーニングのサービスは高齢者などから好評



70歳以上の高齢者への誕生日に花束を渡す活動も喜ばれている

助成金情報

(一財)ハウジングコミュニティ財団「住まいとコミュニティづくり活動助成」(2024年1月10日締切)

今日の住まいとコミュニティに関する多様な社会的課題に対応するため、「コミュニティ活動助成」と「住まい活動助成」を行う営利を目的としない民間団体への助成。(詳細は「ハウジングコミュニティ財団」で検索)

事例 2

地域の福祉保健拠点施設やボランティアと連携して、住民主体の地域づくりを実現。未来を担う子どもたちの意見を尊重し、できる限り地域活動に取り入れる

神奈川県・横浜市鶴見区寺尾第二地区社会福祉協議会



左から、
吉田さん、中西さん、
皆川さん、若林さん、
武隈さん

横浜市鶴見区寺尾第二地区社会福祉協議会

副会長 皆川 慈保さん

事務局長 中西 忍さん

横浜市鶴見区社会福祉協議会

主事 吉田 あきほさん

横浜市馬場地域ケアプラザ

所長 武隈 評吾さん

地域活動交流コーディネーター 若林 直実さん

横浜市北東部に位置する鶴見区は市内でも大きな行政区であり、山側、海側、川側と3つの顔をもつ変化に富んだ地形が特徴で、地域ごとに課題が異なります。区内には18の地区社会福祉協議会があり、そのひとつ、寺尾第二地区社会福祉協議会(以下、地区社協)では、子どもたちが自分で意見を出し、かつ活動主体となって地域づくりに参加する仕組みを進めています。地区社協を推進母体に位置づけ、多くの関係機関と連携することで、スピーディーで開かれた活動が実践されています。

子ども食堂とは異なる、 地域に合った取り組みを実施

寺尾第二地区社協では2018年から偶数月の第3金曜日に、多世代交流会「学んでご飯」を実施しています。全国的に子ども食堂の開設が広がっていた時期に、単に食事を提供するだけではない、寺尾第二地区らしい活動ができないかと模索して生まれた事業です。小中学生が勉強をし、その後に皆で夕食を食べるという活動内容ですが、学習支援は地元の高校に通う生徒、食事作りはヘルスメイト(食生活改善推進員)、帰宅時の見送りは地域の見守り隊と、多世代の地域住民が関わっているのが最大の特徴です。不登校だけ



「学んでご飯」では、勉強の後にヘルスメイトが作った食事を皆で食べる

どこには参加できるという子どももおり、「学んでご飯」は地域の居場所としても機能しています。

しかし活動が軌道に乗り始めた矢先に新型コロナウイルス感染症が流行し、「学んでご飯」も休止を余儀なくされました。

アンケートや対話を通じて、 子どもたちの意見に耳を傾ける

コロナ禍が峠を越え、活動を少しずつ再開するにあたり、改めて子どもたちが何を求めているのかを知りたいという意見が、寺尾第二地区社協内で高まりました。そこで昨年10月、地域の小中学生を対象に地域に関するアンケートを実施したところ、「放課後の居場所がほしい」「ボランティア活動に参加したい」という意見が多く挙がりました。

このアンケート結果を見て、子どもたちの意見を取り入れた居場所づくりを思いつきました。また同時に、コロナ禍によるブランクの影響で、「学んでご飯」を含め地域が取り組んできた行事の多くが、子どもたちにあまり認

知されていないことも表面化しました。より子どもたちのニーズに即した事業展開が必要だと考えた寺尾第二地区社協では、令和5年4月、子どもが自由に地域について語ることができる「地域で何かできる会？」を開催しました。前半の第1部は、子どもたちによるグループワークと発表です。参加した約40名の小中学生は4つのグループに分かれ、自由に意見を出し合いました。忌憚のない率直な意見を出せるよう、子どもだけで話し合いができる環境を作り、グループのファシリテーター役も地元の高校生が務めました。発表された意見のなかには、「信号やカーブミラーを増やしてほしい」「選挙の投票率が低い」「道路沿いに、高齢者が利用



子どもたちの発表を大人が真剣に聞く「地域で何かできる会？」

(公財)公益推進協会「釋海心基金(しゃくかいしんきぎん)」(2024年1月16日締切)

助成金情報

不安定な社会情勢やストレスの多い職場環境などの影響で増加する統合失調症などの精神疾患を有する患者の生活支援活動、自殺抑止のための支援活動、家族を自死で亡くした遺族のサポート活動を行う団体への助成。(詳細は「公益推進協会」で検索)

できる椅子を置くと喜ばれるのでは」など、地域の暮らしや環境にまつわる課題も多数挙がりました。

子どもたちを巻き込んだ、 新たな居場所を立ち上げる

第2部では地域を代表して皆川さんから、10月のアンケート結果をベースにした企画「はな♡そうカフェ」の提案がありました。「なんでもはなせる、地域が寄りそう」というメッセージと、ハートには「心をつなぐ」という意味が込められています。子どもたちの意見を取り入れた地域の誰もが参加して楽しめる「集いの場」を運営するという提案趣旨に対し、子どもたちから質問や意見が出たり、「当日、パンケーキを焼く係をしたい」「テーブルクロスを縫いたい」「学校内での宣伝・広報活動ならできる」など、自分から役割を買って出る場面もありました。開催に向け5月にも有志が集まり、エプロンやテーブルクロスなどの準備を進めました。チラシのデザインやカフェのメニューに至るまで、小中学生の意見やアイデアができる限り取り入れられました。

活動をより幅広く、 より豊かにしてくれた拠点の存在

寺尾第二地区社協のこうした活動の拠点となっているのが、横浜市馬場地域ケアプラザ(以下、ケアプラザ)です。地域の人々の身近な福祉・保健サービスを行う横浜市独自の施設で、市内145か所に設置されているうちのひとつです。2015年にケアプラザが開設



「はな♡そうカフェ」でエプロンを着け、いきいきと活動する子どもたち

されてから連携体制が整備されたことで、地域住民からの問い合わせ先や行事の開催場所としてケアプラザの施設を利用できるようになっただけでなく、より活動がしやすくなり、関係機関や地域住民とのつながりも強固になりました。

そして7月21日、第1回の「はな♡そうカフェ」が開催されました。当日は2階建てのケアプラザの全館が会場となりました。手芸ルームやゲームルームでは地域のボランティアが協力したり、地域の防犯部をリタイアされた方が周辺のパトロール役を自主的に名乗り出てくれたりと、たくさんの方が関わることで、多世代間の交流を深め、気軽に悩みを相談できるような関係性をめざしています。

多くの子どもたちが参加できた背景には、学校側の協力が欠かせませんでした。中学校では第3金曜日を「地域デー」に設定して部活を休止したり、先生が校内放送で『「はな♡そうカフェ」に行くパンケーキを食べられますよ」と参加を促す計らいもありました。

「地域で何か」の投げかけに 「地域と何が」で応える

寺尾第二地区社協の宮野会長による「子どもたちの要望を聞きっぱなしにせず、できるだけ早く返答する」という考えに基づき、今年4月に開催した「地域で何かできる会？」で小中学生から提示された意見についても検討が進められていました。その結果報告の場として、2023年9月4日に開催されたのが「地域と何ができる会？」です。区



「地域と何ができる会」で警察官から今後自分たちが地域で何ができるかについてのお話がありました

役所など各関係機関から担当者が訪れ、子どもたちに向けて、「信号はつけられないが、注意喚起の表示をします」というように、それぞれの要望をどんな部署や団体に相談したか、どのような形で反映することになったか、あるいは応じられない課題についてはその理由が、一つひとつ述べられました。子どもたちは、自分の意見に対して大人が真剣に答えてくれたことがうれしそうでした。行事や会合の名称がどれもユニークなことについて、皆川さんは「そのほうが子どもたちも来やすいですね。ネーミングの工夫は大事です」と名称へのこだわりを述べます。

地域福祉を考えられる 大人になってもらいたい

武隈所長が、「子どもたちが参加することで、本来の地域活動の姿になるのではないかと語るように、子どもたちを活動に巻き込むことは、地域の将来を考えるうえで欠かせない姿勢です。若林さんも、「地域づくりには、自分たちの意見も大切なんだと子どもたちに知ってもらえたことは大きな第一歩です。宮野会長の「地域福祉を自分ごととして考えられる大人に成長してほしい」という思いにもつながります」と、地域の未来を担う力に期待します。

一方で、皆川さんの「私たちの都合だけで物事を進めると、ニーズにそぐわない活動になりかねない。子どもたちが勇気を出して口にした意見を、ないがしろにしてはいけない」という発言からは、子どもたちの意見を受け止める大人側の度量が試されていることもわかります。中西さんも、「子どもたちからの想定外の発言に、はっとさせられることもしばしばです。柔軟性をもって対応したい」と考えています。

吉田さんは、「小さな声にも耳を傾ける姿勢が徹底されているのが、この地区の素晴らしいところ。この先駆的な取り組みを他の地区にも共有し、鶴見区をより良い地域にしていきたい」と抱負を語りました。

助成金情報

(公財)三菱財団「2024年度 社会福祉事業並びに研究助成」(2024年1月18日締切)

社会福祉を目的とし、社会的意義があり、他のモデルとなることが期待できるような非営利の民間の事業/活動への助成。

(詳細は「三菱財団」で検索)

わたしにとってのボランティア

次世代によるボランティアのいま

若者によるボランティア・市民活動は、若者の視点や感性、若者だからこそできることを活かしながら広がりを見せています。こうした若者の活動や思いを紹介することで、若者たちにとって「ボランティア」とは何か、さらに社協VCが若者とつながる地域づくりを考えるきっかけを提供します。



高崎健康福祉大学
人間発達学部
子ども教育学科2年
しらいし まなみ
白石 愛美さん

第9回

群馬県
高崎健康福祉大学
ボランティア・市民活動支援センター
(VSC)

団体紹介

学内外からのボランティア協力依頼を全学生に向けて情報発信する中間支援組織。援農ボランティア、小児医療センターでの遊びボランティアなど、農学部、保健医療学部といった学部の専門性を活かせるセンター主催の活動も実施。

コンタクトの空ケース回収や地域活性化など見返りを求めない活動だからこそ学びがある

現在取り組んでいるのはどのような活動ですか？

大学ボランティアセンター（以下、VSC）との共同プロジェクトとして、使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収する活動をしています。回収した空ケースはコンタクトレンズ販売会社に届けています。リサイクル業者に買い取ってもらったお金は、角膜移植を必要とする人とドナーをつなぐ日本アイバンク協会に寄付されます。

この活動を始めたのは、コロナ禍で部活動ができなくなってしまった高校生の時でした。私自身はコンタクトレンズユーザーではないので直接貢献することはできません。それでも活動について宣伝することはできます。この活動を高校生よりもコンタクトレンズユーザーが多い大学でも続けたいと、VSCに相談して取り組み始めました。



コンタクトレンズ販売会社にコンタクトレンズの空ケースを届ける

大学では、ポスターの掲示や授業時の宣伝で周知を行い、各学部を設置した回収箱に空ケースを入れてもらう形をとっています。昨年度前期は約10kg、後期は約15kgを回収することができました。

これまでに参加してきた大学外の活動は？

私の地元である東武伊勢崎線の太田駅北口を盛り上げようという「キタグチタウンイベントマルシェ」のお手伝いもしています。この活動では、VSCに依頼して学生ボランティアを募集してもらい、イベントを盛り上げました。

また、高校時代のボランティア仲間と「くれよん委員会」という団体を立ち上げ、キタグチタウン実行委員の方々と地元の高中生と協力してブースを出しています。

実行委員には商店街の方やキッチンカーで出店している方、地元企業の社長などが参加していて、人との関わり方や臨機応変な対応など多くのことを学べます。

さまざまな活動を通じてどんなことを学びましたか？

初めてボランティア活動に参加したのは、中学生の時の地域清掃活動です。その後の活動で特に印象深かったのは東日本大震災後の災害ボランティアでした。

この時に、ボランティア活動は見返りを求めてやるものではないと気づきました。学生のなかには有償ボランティア（と呼ばれている活動）をしたいと話す人もいます。そうした活動は見返りがある＝言われたことをしさえすればよい活動のような気がしています。私は、金銭的価値とは関係ないからこそ自分から行動する積極性が芽生え、そこから学べるものがたくさんあると思っているので、そこにこだわって活動を続けていきたいです。また、地元である太田市に住む人々が心から元気になって暮らしやすい環境づくりに貢献したいとも考えています。

とはいえ、若者世代には一歩踏み出す勇気が出ない人も多いはずですが、まずは若者同士で思っていることを話し合えるような気軽なイベントがあれば、お互いの問題意識がわかり、活動のきっかけになるのではないのでしょうか。

社協VCが若者とつながるには？

この学生のボランティア活動のスタートは社会教育関係団体が募集したボランティアでした。活動の入口はいろいろあるので、まずは、いろいろな分野の窓口の方とつながっておくと若者世代との関わりが出てくると思います。さらに、職員自身がボランティア活動に関心をもち、活動者の視線で、熱意をもって接してほしいと思います。

VSC係長・コーディネーター よしざわ みちこ
吉澤 道子さん

助成金情報

(公財) ノエビアグリーン財団「2023年度助成事業対象者募集」(団体・個人)(2024年2月29日締切)

児童・青少年の健全育成の向上を目的とした体験活動、およびスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、または奨励している団体、将来世界大会やオリンピック、パラリンピック出場等を目指すアマチュアスポーツ選手(18歳以下)への助成。
(詳細は「ノエビアグリーン財団」で検索)

キーパーソンから 学ぼう!



お互いにつながる
はじめの一歩

人と人のネットワークをつなげながら、人々の生活に直結するさまざまな困りごとにアプローチをしているキーパーソンを紹介します。

さまざまな分野のキーパーソンから協働のヒントを探り、読者の皆さまもはじめの一歩を踏み出しましょう!

第9回

「楽しさ」を基軸に、 若者の貧困や社会的孤立の 解消をめざす



東京都
NPO法人 サンカクシャ代表理事
荒井 佑介さん

埼玉県出身。あるホームレス男性との偶然の出会いを機に、大学在学中からホームレス支援や小中学生の学習支援に携わる。NPO法人等での活動を経て、15歳以上の若者支援の必要性に着目し、2019年にサンカクシャを設立する。

「人のために何かしなさい」と 言われて育ちました

2008年頃からホームレス支援を始め、路上で暮らす人のなかに若者が多いことを知りました。その後、学習支援にも携わるようになりましたが、教え子たちが中学卒業後に路頭に迷う様子を見て、義務教育の後の支援が必要だと気づきました。当時は若者支援団体がほとんどなかったため、自分で団体を立ち上げました。もともとボランティアに関心があったわけではありません。ホームレスのおじさんとの、交流からの学びがなければ、この道には進んでいなかったでしょう。ただ思い返すと祖母の影響は大きかったかもしれません。「人のために何かしなさい」とは、よく言われていました。

出発点はいつも、 目の前のひとりの困りごとです

サンカクシャでは15～25歳くらいの若者に、居場所・仕事・住まいの3つの支援を行っています。働くことにつまずいた子がいたから、家を追い出されてしまった子がいたから、というように、すべての活動は誰かのひとつのケースから始まっています。困っている若者の多くは、周りの大人を頼れなかったり信用できない状態です。彼らに敬遠されず頼ってもらえるような印象づくりを意識



若者が安心して過ごせる居場所「サンカクキチ」。
コワーキングスペースも併設

して、団体のコンセプトも工夫しています。接し方も「かわいそう」というスタンスではなく、一緒に遊びながら話を聞くくらいの感じです。サンカクシャのビジュアルモチーフにタングラムパズルを使っているのは遊び心の表現ですし、イメージカラーを寒色系で統一しているのは、福祉の印象を強く出たくないという考えからです。

若者支援では安心と自信の獲得が何より大事なので、失敗しても大丈夫なんだとわかってもらうことから始めます。意欲の芽は、本人の「やってみたいこと」のなかにあることが多いです。例えば彼



外見を磨くためヘアカットに臨む若者。
サンカクシャでは多角的に若者を支援する

女が欲しいという子には、ヘアスタイルや体型など外見を磨く支援をし、バンジージャンプに挑戦したいという子にはその機会を作ってあげます。自分の発言を行動に移すことで自信が生まれ、働きたいという意欲につながっていくこともありました。お手本のような成長をしてくれる子ばかりではありませんが、諦めずに手間と時間をかければ、必ず変化はあります。

人は誰でも、変わる可能性を もっています

私は常に現場にいたいタイプです。自分で新しい仕組みを作って、「サンカクシャっておもしろい」と思ってもらおうと応援者が集まり、また次の活動につながるという循環ができていくこと、活動の幅を広げられていることが、ありがたいですね。でも、私たちだけでできることは限られています。社会の受け皿は圧倒的に足りないし、そもそも若者の問題が知られていないと感じます。それが、若者が貧困ビジネスや闇バイトに流れる一因になっています。全国の自治体に「若者」を冠した部署を作るくらいの対応があつていいのではないのでしょうか。従来の福祉とは異なるアプローチをしないと、支援しにくいのが若者の領域です。若い世代がどんどん支援の側に回る仕組みづくりも必要だと思います。

書籍紹介

『月刊福祉』2024年1月号（全社協出版部）価格1,068円（本体971円）

特集は、「人材確保の未来を考える」。超高齢社会を迎え社会の支え手が減少するなかで、人材確保は福祉分野のみならず日本の社会全体の最重要課題である。人材確保を実現するうえでのさまざまな方法を検討する。（詳細は「福祉の本出版目録」で検索）

災害ソノトキ!

～災害時の連携に向けて、
平時から考えたい協働の視点～

災害時は、被災者をより適切・効果的に支援するために、被災地内外のボランティア・NPO、行政等との連携協働が必要不可欠です。

本連載では、実際に災害VCを運営した社協の取り組みから、災害時の連携や平時の取り組みについて学びます。

第9回 福島県 南相馬市社会福祉協議会

新しい仕組みや連携のかたちを
積極的に取り入れる南相馬市社会福祉協議会
鹿島区福祉サービスセンター
所長さとう きよひこ
佐藤 清彦さん福島県沖地震における市社協の
災害ボランティアセンター運営

2022年3月16日に発生した福島県沖地震は、南相馬市社会福祉協議会（以下、市社協）にとって、東日本大震災を含む3度目の災害ボランティアセンター（以下、災害VC）開設に至る災害となりました。この災害VC運営では、専門技術が必要なニーズと技術系ボランティアとのマッチングを、市民活動サポートセンターに担っていただきました。同団体はさまざまなNPOとのつながりがあり、市社協とも日頃から顔の見える関係だったことが今回の連携につながったと感じています。その後、この役割を引き継いでいただいた（一社）カリタス南相馬は、東日本大震災以降、市社協と協働している団体です。災害VC閉所後も大いに力を発揮してくださっています。

災害VCでの事務系の支援活動で
トヨタ自動車のボランティアが活躍

先の災害VCの運営では、トヨタ自動車（株）のボランティアの方々に約1か月間（2人組で4～5日交代）、運営支援に入っていただきました。具体的な活動は、ボランティアの名簿入力や、既存の書式等のブラッシュアップなどですが、そのうち終礼時の板書の下準備や、忙しい班のサポート、掃除までしていただける



トヨタ自動車のボランティアによる運営支援で、事務系の活動が盤石になった

ようになりました。市社協として最も手が回らない部分でしたし、災害VCの運営は事務系が盤石でないと回りませんので大

変助かりました。

支援のきっかけは、東日本大震災以降、災害VC研修の講師を務めていただいているNPO法人にいがた災害ボランティアネットワークの李さんのご紹介でしたが、この時につながったトヨタ自動車の方とは、災害後も時折SNSを通して情報交換をしています。トヨタ自動車はそのネームバリューからくる信頼感もありますが、社内で災害VC運営の研修受講を推進されているとのことで、とても安心して支援をお願いできました。

組織同士のつながりを強化するため
協定を結び平時からも連携

これまでの災害VCの運営は、職員の個人的なネットワークをきっかけに支援活動や連携会議が始まるケースが多々ありました。しかし、その個人がいつまでも同じ役職にいるとは限りませんので、今後はもっと組織同士のつながりを強くしていくべきだと考えました。その手段のひとつが、各団体との協定締結です。ただし、災害時の協定だけのドライな関係にならないよう、平時からお互いの事業で少しでも連携できることがないかと模索しています。実際、協定を結んだ団体のひとつと子ども食堂を共催するなどの事業も始まっています。

これまで連携してきた各団体との「災害VC連携会議」も継続的に開催しています。この会議には、市の社会福祉課だけでなく危機管理課なども参画しているため、今後の災害VC運営に大きな力になると感じています。実際に、災害VCの備蓄倉庫を市社協の敷地内に建設する計画が進んでいます。また、市社協や関係団体が協働して講座やイベントの開催にも取り組んでおり、より多くの市民に防災の知識を身に付けていただくことで、地域の大人が子どもに防災教育をしていく風潮を広げることを目標としています。

インフォメーション（読者アンケートを実施します～皆様のご意見・ご感想をお待ちしています～）

これからもボランティア・市民活動に関わる読者の皆さんにとって価値のある紙面となるよう、皆様のご意見・ご感想をうかがうことで今後の紙面づくり役に立てたく、読者アンケートを実施します。

●主な質問内容：感想/掲載希望/おすすめ実践

ぜひご協力をお願いします!!

QRコードまたはURLからご回答ください。

<https://forms.gle/NxCY1saqGspalNdU6>